

『将棋道場』特集 2011.2.22

『将棋道場に寄せて』

将棋は礼を重んじます。勝負が終わると負けた方が「負けました」と頭を下げ、勝った方は「ありがとうございました」と頭を下げます。勝っても負けても相手がいればこそ、勝負に挑むことができます。互いに健闘を讃えあい、挨拶をするのです。

これはプロもアマも変わらない将棋の作法です。将棋にはまた感想戦があります。互いが互いを高め合うための礼儀作法のようなものです。勝負を終えた二人が指した手を戻し、よりよい手を検討し直します。気持ちを切り替え、互いの実力を高めるために協力し合う。すばらしい将棋の伝統です。

山の学校ではまた、力の差のある者同士が真剣勝負を挑めるように、駒落ち制度を導入しました。平手では力の差のある二人でも、駒落ちでその差を調整すること出来るので、取り組みに一段と熱が入るようになりました。誰もが礼を重んじながら真剣勝負に取り組むことで、山の学校の将棋道場はいつも楽しく充実した時間が流れています。

(文責 北白川幼稚園長・山の学校代表 山下太郎)



次回の将棋道場<予告>

2月26日(土) 9:00~11:00
トーナメント戦&フリー対局

3月14日(月) 16:00~18:00 フリー対局

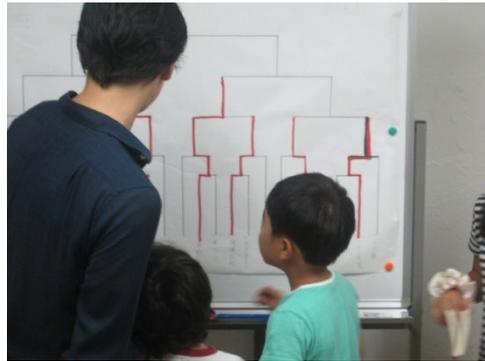
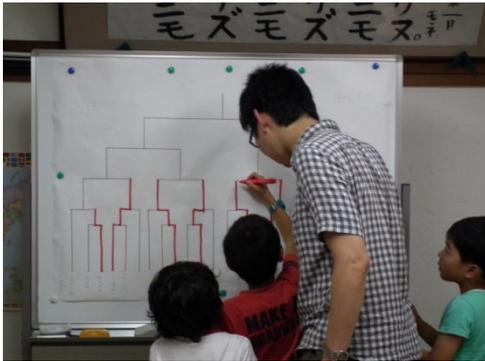
4月25日(月) 16:00~18:00 フリー対局

* 2月の会では、保護者による対局スペースも設けています。腕に自信のある方はお子様と一緒にぜひ!

8月~11月

おかげさまで好評をいただいております将棋道場ですが、8月には夏休み特別企画ということで、将棋道場トーナメント大会を行ないました。総勢19名の子どもたちがトーナメントに参加して熱戦を繰り広げてくれました。

当日はこのようなトーナメント表を用意しました。子どもの頃って、こういうトーナメント表があるだけでなんとなくテンションが上がリませんか？(笑) 子供たちも喜んで対戦結果を書くのを手伝ってくれました。



優勝候補はこれまでの将棋道場で圧倒的な強さを見せていたGくんだったのですが、Gくんが準決勝まで勝ち進んだところで予定が入っていたため無念の途中辞退ということになってしまいました。優勝する気満々だったGくんは途中で帰らなければならないことにかなり悔しそうな様子でした。残念だったのですが、また次回にその実力を発揮してもらえればと思います。

決勝戦は、準々決勝でいちどはGくん惜敗した3年生のI.Mちゃん(Gくんが先に帰ったため復活して準決勝→決勝進出)と、最近着実に力を伸ばしている2年生のM.Kくん。決勝戦では、M.Kくんがやや緊張してしまったのか普段の実力を発揮できず、I.Mちゃんが終始戦いを優勢に進め、完封勝ち！将棋道場トーナメント大会初代チャンピオンはI.Mちゃんに決定です。



年長組から小学6年生まで参加したトーナメント戦で、小学3年生の女の子が優勝するとは、将棋の面白さを改めて知らされた気がしました。年齢・性別に関係なく、強くなれるし楽しめる。これが将棋の醍醐味です。

優勝したI.Mちゃんは普段から弟のI.Tくんと家で将棋を指して遊んでくれているようで、ふたりともなかなか実力が伯仲しているので(今のところはI.Mちゃんがお姉さんとしての面目を保っているそうです)、一番いいライバルが身近にいることになります。普段から同じくらいの実力の相手と対戦を積み重ねること。これが何よりの将棋上達の近道なので、今回I.Mちゃんが優勝したのも納得です。ちなみに弟のI.Tくんもかなり強くなっているのですが、一回戦でいきなりお姉さんと当たってしまい(!)、残念ながら初戦敗退となってしまいました。次回以降の雪辱を期待したいところです。

また冬休みにこのようなトーナメント大会を開催できればと考えています。それまでに子供たちがどれだけ実力を伸ばしてくれるか、とても楽しみです。



9月には山下太郎先生のご厚意により、解説用の大盤を購入していただきました。子供たちも駒の動かし方や対戦の仕方に慣れてきてくれたようなので、将棋のさらなる面白さを知ってもらうために、大盤をつかってワンランク上を目ざす解説ができればと思っていたところでした。山下先生、ありがとうございます。当日は早速、大盤を使って「囲い」や「詰将棋」の解説をしました。



今のところ、相当に強い子でも「囲い」や「詰将棋」がしっかりできている子はほとんどいません。逆にいえば、「囲い」と「詰将棋」がしっかりできるようになれば、確実にレベルアップして周囲の子たちにぐっと差をつけられるはずです。

これからも多くの対戦と練習を通じて、将棋の実力を伸ばしていってもらえれば、と思います。将棋道場がさらに盛り上がるよう僕も努力していきたいです。



(↑先生方も子どもたちと勝負！)

12月～1月

冬学期の将棋道場は、駒落ちルールを厳格に取り入れることにしました。これは山下先生や福西先生からアドバイスを頂いてのことです。昇級ルールを取り入れた結果、弱い人とばかり指したが、強い人と指すのを避けようとする子どもたちが増えてきてしまいました。これにどう対処すればいいか、という旨のブログ記事を書いたところ、山下先生と福西先生からすぐに駒落ちルールについての提案を頂きました。駒落ちルールを取り入れれば、実力が開いている者どうしても、互角の勝負ができます。これによって前述のような傾向を避けることができるようになりました。具体的な駒落ちルールは右の通りです。

『駒落ちルール』

- 同級 平手（振り駒）
- 1級差 先手後手（下級者が先手）
- 2級差 角落ち
- 3級差 飛車落ち
- 4級差 飛車角落ち

駒落ちルールを取り入れることで、これまで無敵だった Ge くんが 4 級差の Yu くんには危うく負けられそうになったり、3 級差の Ka くんや I くんが互角の勝負だったり（1 勝 1 敗）する場面が見られるようになりました。上級者の子にとってもまだ弱い子にとっても、いい刺激になっているのではないかと思います。また毎回見に来てくださっている中務先生や、山下先生、福西先生、僕などの先生陣と子どもたちが駒落ちで対戦することもあります。僕は今のところ、Ge くんや Mi ちゃん、Te くんたちと 6 枚落ちで指していますが、まだ負けていません！そろそろ誰かに負けしてほしいところです。6 枚落ちには飛車・角に加えて香車と桂馬も落とすので、下手が簡単に勝てそうに見えるのですが、どっこいなかなか勝ちきるのは大変です。6 枚落ちで勝つためには、飛車・角だけでなくもう 1 枚、銀や香車などを使って攻める必要があるのですが、これがなかなか難しいようです。たまに上級者と駒落ちで指すのはいい勉強になります。ぜひどんどん挑戦してきて欲しいです。

今回も、健哲先生や亮馬先生に撮っていただいた写真を紹介します。



最近では子どもたちもどんどん強くなり、対局中も集中力が増してきたように思います。対局中に大声で騒いだり、隣の子にちょっかいを出したりする子どもは以前に比べて格段に減りました。しんとした状況のなかで全員が盤面に集中している場面もよく見かけるようになり、指導している側としては嬉しいかぎりです。そうして集中して一局一局を指すことが強くなるための一番の道です。詰将棋を解ける子どもたちも増えてきましたし、今後がますます楽しみです。

2 月末の将棋道場では第 2 回トーナメント大会（子どものみ）を開催予定ですので、ぜひ奮ってご参加ください。今回は大人の方のための対局スペースも設ける予定ですので、久しぶりに将棋を指してみたいという保護者の方や一般の方などいらっしゃいましたら、お気軽にご参加ください。

(文責 百木 漢)